

実践研修(現地検討)の概要①

近畿中国ブロック

講義等名	「低コスト造林への取り組みに向けた技術者としての在り方(技術者の姿)」				
研修場所	新見市	実施日	10月24～26日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
今後増加が見込まれる主伐を的確に対処していくため、コンテナ苗等を活用した低コスト造林やシカ被害対策に関する最新の知識・技術を習得させ、循環的な木材生産の戦略を描き実践できる技術者を育成する。					
【本研修の必要性】					
<p>今後、成熟した森林資源を循環的に有効活用するため、主伐の増加が見込まれており、皆伐後の再造林については低コスト化が必要不可欠の課題となっている。</p> <p>このため、現在取り組まれている伐採から造林までの一貫作業システムや、ニホンジカの生息数の増加や生息域の拡大に伴い、被害が増加している苗木植栽後のシカ食害対策を含め再造林の推進にあたり、最新の技術や知識をもって森林所有者等に指導や助言を実施できる技術者の育成が必要。</p> <p>併せて今後需要の増加が見込まれるコンテナ苗についての特性や生産技術、今後の供給の見込みなどについて管内の状況を把握することは非常に重要である。</p>					
【カリキュラムのポイント】					
【講義】					
①伐採～造林までの一貫作業システム(外部講師)					
②ニホンジカを中心とした獣害被害防止対策(外部講師)					
③コンテナ苗(外部講師)					
【グループ演習】					
事前課題レポートによる各府県の取組及び現地演習における検討シートを活用し、検討結果をもとに班内で共有・発表・全体討議・講評。					
【現地演習】					
①一貫作業システム及びコンテナ苗について、現地演習シートを活用して班毎に現地検討。					
【意見交換】					
①事前課題①～③をもとに、各自の取組内容、成果等を共有・発表し、技術者(研修生)が描く戦略について意見交換。					
【事前課題】					
①伐採・搬出・植え付けについて一体的に取り組んでいる内容、コンテナ苗等を活用した低コスト造林の取組内容、成果、問題点及び今後の課題					
②苗木生産者への技術的支援に関する取組内容(又は予定)					
③ニホンジカを中心とした獣害被害防止対策の取組内容、成果、問題点及び今後の課題					
①～③についてレポートを作成・提出					
【外部研修講師】					
奥田 史郎((独)森林総合研究所関西支所 森林生態系グループ長)					
高橋 裕史((独)森林総合研究所関西支所 生物多様性研究グループ 鳥獣担当 主任研究員)					
長畑 州三(豊並樹苗生産組合組合長)					